

「Blue Ocean Project」ウミガメの保護を通じた海浜環境保全活動 取組み7年目！今年も「しゃべるタグ」を導入した 「ikka」メンズ支援Tシャツを7月6日発売！



株式会社コックス（本社：東京都中央区日本橋浜町 1-2-1、代表取締役社長：寺脇栄一、以下当社）は、**2018年7月6日（金）より全国の「ikka（イッカ）」、「ikka LOUNGE（イッカラウンジ）」約150店舗（一部店舗除く）・各WEBストアにて「ブルーオーシャンプロジェクト」支援Tシャツを発売**します。商品には昨年から導入した専用の「しゃべるタグ」を付け、取組みについて詳しく理解して頂ける工夫をしています。メンズのみの3色展開、カラーにより異なるデザインが特長です。

◆Point!!!

- 1.取組み7年目！継続して取り組むことで、プロジェクトについての理解・周知を拡大
- 2.「しゃべるタグ」を今年も導入！QRコードの読み込みで情報を詳しく知ることができる
- 3.「ikka」メンズからカラーにより異なるデザインの支援Tシャツを3色展開

◎刺しゅうがポイントの「ウミガメ」Tシャツ、今年も「しゃべるタグ」が付きます！

当社は、2012年より「ブルーオーシャンプロジェクト」に参加しています。同プロジェクトは、絶滅危惧種に指定されているウミガメを中心とした海洋動物や海浜環境の保全を行ない、海のそばで暮らす人、漁業者、ウミガメと接する人々の暮らしや文化の保全も模索していく取り組みです。当社では販売額の一部をNPO法人日本ウミガメ協議会に寄付しています。

この度展開する支援Tシャツは、ウミガメの刺しゅうがポイントで綿100%（オーガニックコットン10%含む）の商品です。価格は1,900円（本体価格）でカラーによりデザインが異なり、選ぶ楽しさも3倍です。

しゃべるタグとは、オーガニックコットンブランド「オーガビッツ」が開発した商品下げ札です。タグに付いたQRコードをスマートフォンで読み込むと画像と音声起動し、支援するプロジェクトを紹介します。



しゃべるタグ

聞こえますか...私は鳥です...
しゃべるタグを通して、あなたに
お礼が言いたいです...スマホで
QRコードからサイトを見ながら、
私の声を聞いてください...



◎2018年支援商品 概要

発売日：2018年7月6日（金）
商品名：ウミガメ刺しゅうTシャツ
価格：1,900円+税
カラー：ネイビー・ホワイト・ブラウン
サイズ：M・L・LL



①



ネイビーは、前面ポケットにウミガメの刺しゅうを施し、バック部分には“NEWPORT BEACH”とカリフォルニアの地名をプリントしています。

②



ホワイトは、様々な海のイメージやウミガメの泳ぐ様子をプリントしています。こちらは、ウミガメの刺しゅうを袖部分に施しています。

③



ブラウンは、シンプルなロゴメッセージを前面にプリントしています。こちらは、裾部分にウミガメの刺しゅうを施しています。

◎展開 WEB ストア

- ・公式オンライン：<http://store.cox-online.jp/ikka/>
- ・ZOZOTOWN：<http://zozo.jp/shop/ikkalounge/>
- ・マルチウェブチャネル：https://search-voi.0101.co.jp/voi/shop/ikka/?floor=sb_l_all
- ・楽天ブランドアベニュー：<https://brandavenue.rakuten.co.jp/ba/shop-ikka/>
- ・MAGASEEK：https://www.magaseek.com/shop/top/sh_COXIIK-tr_s

ご参考

◆NPO 法人日本ウミガメ協議会◆



日本で産卵が見られるアカウミガメは、生まれると一度メキシコまで移動しますが、大きくなるとまた日本に帰ってきて産卵します。アカウミガメの産卵地は北大西洋の中で、日本の砂浜だけとなっています。またダイビングで出会うアオウミガメも日本の海の豊かな海藻を食べに来ています。

しかし今、何百万年も命を受け継いできたウミガメ達も絶滅が心配されています。

ウミガメの保護を目的に設立された NPO 法人ウミガメ協議会は、ウミガメ類を取り巻く自然環境の保全というテーマに関し、ウミガメ類の保護や研究活動を行なっている民間団体及び個人、関連機関などと相互の連絡交流を図りながら、ウミガメ類の研究及び保護活動を育成・発展させることを目的に活動しています。

◆オーガビットプロジェクト◆



日本で最も多くのアパレルブランドが参加するオーガニックコットン普及プロジェクト。

オーガニックコットン 100%にこだわらず 10%の商品を 100 倍の人に届けようという「逆転の発想」で、現在 90 ブランドが参加し、年間 63 万枚のアイテムを生産しています。その活動は原産国農家や NPO 法人の支援へと拡大し、一枚の服を通してお洒落に参加できる社会貢献活動としても輪が広がっています。

従来の栽培方法で生産されている綿花には、世界中で使用されている殺虫剤の約 15%、農薬の約 7%が使用（*出典：Textile Exchange）されており、土壌汚染、環境問題等様々な問題を内包しています。一方、オーガニックコットンとは、農薬や化学肥料を 3 年以上まったく使用してない農地で、有機栽培された綿花を指します。オーガニックコットンの需要が高まることで、従来の栽培方法による綿花栽培が減少し、上記の問題が改善されていくことが期待されます。